

オーケストラ・アンサンブル金沢 第26回 名古屋定期公演

2007年3月20日(火) 19:00開演(18:15開場)
愛知県芸術劇場コンサートホール

【指揮】ペーター・シュライヤー

Peter Schreier, Conductor

20世紀が生んだ、偉大なテノール歌手の一人。8歳のときに入団したドレスデンの名門、聖十字架合唱団で本格的な音楽教育を受ける。1961年にはドレスデン国立歌劇場でモーツァルトの歌劇「後宮からの逃走」をベルモンテ役でこなし、一躍脚光を浴びるようになった。その後の活躍ぶりは誰もが知るとおり。世界の檜舞台に次々と登場し、時代の大指揮者たちから絶大な信頼を得、文字通り世界的なテノール歌手となった。シュライヤーはドイツ歌曲のすばらしさを真に伝える最後の歌手とも言われた。さらにバッハの宗教曲においても他の追随を許さず、特にマタイ受難曲やヨハネ受難曲の福音史家では、彼を超える者はいない。

オーストリア、旧東ドイツ、ドイツ・バイエルン州が宮廷歌手の称号を受け、ウィーン楽友協会名誉会員、ベルリンのアカデミー会員と、様々な名誉ある賞を受賞している。近年は指揮者として活躍している。

【箏合奏】正派邦楽会東海支部

Seiha Hougakukai Tokai shibu, Koto Ensemble

正派邦楽会は、創立90周年の歴史を持ち、アメリカ支部も含め全国11の支部に分かれて会員を育成している。今回は2006年3月名古屋定期公演に引き続き、東海支部が出演、2度目の共演となる。

【合唱】オーケストラ・アンサンブル金沢 名古屋特別合唱団

Orchestra Ensemble Kanazawa Nagoya Chorus, Chorus

東海地区で活動する合唱団による、今回の公演のために特別編成された合唱団。コール・フロイデ、鷹来女声コーラス・エッセ、東海メールクワイアー、豊田市民合唱団を中心に編成

【ソプラノ】ユーリア・コルパチョーヴァ Yulia Korpacheva, Soprano

モスクワ音楽院卒業。モスクワ・ソロイスト室内管弦楽団、リトアニア国立交響楽団、クレメラータ・バルチカと共演。

2000年に、オペラのソリストになり、サルツブルグ音楽祭、ロッケンハウス音楽祭などで演奏。2001年カーネギーホールでアメリカデビュー。同年、ギドン・クレメールとのCD「ロシアの四季」をリリース。

【メゾ・ソプラノ】池田 香織 Kaori Ikeda, Mezzo Soprano

慶應義塾大学法学部を経て、声楽家となる。二期会オペラスタジオ修了。96年にソプラノからメゾ・ソプラノへ転向。「セヴィリアの理髮師」ロジーナでデビュー。故岩城宏之 / オーケストラ・アンサンブル金沢モーツァルト全集では、浜離宮朝日ホールにて「フィガロの結婚」ケルビーノで出演。

2000年二期会「魔笛」、03年「ばらの騎士」他多数出演。

【テノール】大野 徹也 Tetsuya Ohno, Tenor

東京芸術大学大学院修了。1981年民音コンクール第2位入賞。83年日本初演「ジークフリート」題名役を歌う。その後「タンホイザー」などワーグナー作品を歌い、ヘルデン・テノールとして評価を受けると共に、「トロヴァトーレ」マンリーゴや「椿姫」アルフレードなどイタリア物の評価も高い。二期会会員。

【バス】ソン・ドン・クオン Soon-Doon Kwon, Bass

パルマ音楽院、オルフェオ・アカデミー、モーツァルトウム音楽院を経て、ケルン音楽大学でクルト・モルに師事。トロント国際声楽コンクールで第1位など、各地のコンクールで次々と入賞。2001/2002シーズンからドイツ・マクデブルグ歌劇場で、「アイダ」「ハムレット」等に出演。2003年には同歌劇場の「アイダ」日本公演(指揮:天沼裕子)で神官役を務め、大好評を博した。